



開創十八年目の開山忌

新寺建立から十八年目を迎えて、二月七日午後二時から、善光寺で開山忌が厳修された。

株式会社ナリス化粧品社の社長、故・村岡満義氏を開基に、師父の白純大和尚を開山として迎えて、昭和四十四年に法人認可。四十五年の本殿客殿を建立。四十七年に、本殿と客殿を増築して晋山式を挙行。さらに五十七年には釈迦殿の落慶を見る。

開山法要が厳肅に行われたあと、挨拶に立った本寺の大田原・光真寺のご住職、黒田俊雄師は、「先住（開山・黒田白純大和尚）の亡くなった朝は、雪が降り、雨になった。密葬の速夜は大風が吹いた。これは、八風吹けども動ぜずという、不動心が大事だということを教えて頂いたと思う。七回忌にもかつてない程雪が降った。



励ます

横浜国立大学では、世界各国から教育研修留学生を受け入れているが、現在、同大学では、二十人が研修を受けている。

善光寺住職自らも、タイ・アメリカで修行した経験を持ち、海外に留学僧を派遣している今こそ、異国で生活する留学生を励まし、今後の留学僧派遣にも、具体的な参考意見を聞かせていただくようお願いで、二月十四日、善光寺で親睦会が聞かれた。

文部省が国費で受け入れている留学生は、年

先住は、開山忌をことのほか大事にされたが、今日、法要に参列して先住のその心をしみじみと思った。坊さんとして生まれた有り難さを身体で表わすと、このような法要になると思い、開山忌の意味もそこにあると感じる」と語られた。

当山住職は、「寺をやっていくには、本日参列

いただいた方々のお力添えをいただかねばならない。本当に有り難うございました」と、感涙と共に謝辞を述べた。

長男・武徳君、二男・泰志君に続いて、昨年二月八日に得度した三男・博志君を抱き抱えるようにして参列者の前に立った姿が印象的だった。



を 修 生 研

間三千人を越し、うち、現職教員と教育機関の職員を対象とした教育研修留学生の数は百二十余人を数える。昭和五十五年度から実施されており、留学生は、教育学部を持つ国立大学にそれぞれ分かれて、一年半のプログラムで、日本語や教育学などを学ぶ。

主に、発展途上国の初・中等部の教員が対象とされ、帰国ののち、それぞれの国の教育水準向上に貢献させようという目的である。

留学生の世話役をしておられる菊地英昭氏は、国立教育研究所の職員であると同時に、曹洞宗の住職でもあられ、当山の住職とも知己であることから、日本の仏教寺院の見学の意味も含めて、留学生を連れて善光寺参拝が実現した。住職は、「留学生の為に是非とも激励したい。」と、心温まる有意義な一夜を想い出として贈るべく、このひとときを持った。

当日は、善光寺海外留学僧派遣育英会の佐藤

俊明常務理事、同会参与の阿部慈園師、同じく曹洞宗ボランティア会会長松永然道師、高野山真言宗の歆成院住職摩尼和夫師、日蓮宗の相模原師、法性寺住職佐藤功岳師ら、海外交流や仏青活動の経験者も招いて、更に有意義な親睦をはかることとした。

横浜国大の奥田真丈教授と共に善光寺を訪れた十一人の留学生は、釈迦殿での「仏教興隆・世界平和・学事弁道精進・道中安全・心願成就」などを祈願する法要に参列、日本の仏教儀式を興味深く見守りながら合掌した。このあと、一階大広間で懇談会を持ったが、住職は、「遠い国からはるばるおいでになり、異国生活で不自由をしておられると思う。私も、タイで僧院生活をして、言葉では大変不自由をしたから、みなさんの気持がよくわかる。」と語り、これからは毎年こうした留学生の激励と親睦の集いを継続していく考えをのべた。

出席した留学生は、フィリピン・ビルマ・ブラジル・タイ・メキシコ・マレーシアなど多彩な国々で、幼稚園教育、教育管理、教育行政、テレビ教育、文部省公務員などの仕事に携わっており、それぞれが精一杯の日本語で自己紹介をした。

「ささやかながら日本の味を楽しく味わってもらおう。」と、檀家の料理屋さんに場所を移して留学生をもてなした。

それぞれが自国の歌を歌い、最後には肩を組み合って大合唱となった。

「楽しかった。」「最高の夜だった。」「黒田和尚は素晴らしいキャラクターの持ち主だ。」と、留学生たちは名残り惜しそうに宿舎に帰っていった。

この記事は、中外日報でも大きく取り上げられている。



ニューヨーク・ゼン マウンテン一行参拝

四月七日、成田に到着したニュー
ヨーク・ゼンマウンテンの一行十一
名が、来日して第一番目に訪れたの
は善光寺であった。

今回の来日は、一行を率いるロー
リー大導師（黒田方丈の兄弟子前角
老師の徒弟）の端世（あいでし）の
一夜住職の儀式）が主な目的である
が、帰国予定の二十日まで、鎌倉・
永平寺・高野山・岡山と、各地の見
聞や桐ヶ谷寺の晋山式への出席など、
過密なスケジュールが組まれている。
ニューヨークのゼン・マウンテン
は、前角老師のお弟子大角老師ローリ

一 大道師が住持しており、当山から派遣された留学僧・河内義宣師もここで学んでいた。そしてすでに今年度の留学僧の受け入れも決定した。

一行のうち九名は外国人であるが、釈迦殿で厳修された法要では、法式のつとり両班や堂行どうかいなどの役割りを立派に勤め上げた。

般若心経をよどみなく読誦する彼らには、異国人としての隔りはない。

法要のあと挨拶に立った黒田方丈は、留学僧に対するゼン・マウンテンの方々の温かい励ましに心からなる感謝をのべ、御一行の旅が無事に果されるようにと語った。

通訳として同行された、素子・ウオルシャフスキー女史は、現在ニューヨークに住んでおられるが、日本



のご家族は当山とご縁の深い写真家駒沢晃先生の義姉である。

そのあと客殿に用意された席で和食を味わっていたが、宝泉寺住職の妥川師・当山の桐元師などが、巧みな会話で座を盛り上げ、なごやかな昼食会となった。

一行はこのあと総持寺に参拝するために当山をあとにしたが、長旅の疲れも見せず、輝くような笑顔でいつまでも手を振っていた。

一行は日本におけるすべての日程を全部消化し、四月二十日、ニューヨークに無事到着した。

タイ・パクナム住職を案内



パクナム住職と固い握手をかわす



那谷寺にて

当山の海外留学僧を受け入れている、タイ・ワット・パクナムの住職が一行が来日され、五月二十九日、当山住職が案内して、大本山永平寺に参拝しました。道元以来七百年変わることなく受け継がれてきた厳しい戒律の生活に触れて、タイ仏教と似た点を見い出されたことでありましょう。

翌三十日は、高野山真言宗別格本山である那谷寺を訪れました。

られ、観音札所の霊場となつています。

内山 款偉 二万
宮林 昭彦 十万

た。

自然に恵まれたそれぞれの寺院に詣でて、ご一行は感激を新たにされたご様子でした。

山口 之徳 五十万
栄光 道院 二万

天然岩窟に建立された本殿には、千手観音が本尊として納め

たにされたご様子でした。

河内 義宣 二十万
日本軽金属K・K 五十万
梅の木松野幸助 十万

東隆真先生祝賀会

『成寿』誌上に、「禪と衣・食・住」という興味深い原稿を、

祝賀会が開かれました。

黒河内 貞子 一万

毎回お書き願つて、皆様にもおなじみの東隆真先生が、この度

周行師が世話人となり、宴は盛会のうちに幕をおろしました。

関口 徑嗣 五万
鳥屋原百合子 一万

文学博士の学位を授与されました。

ご寄付御礼

●成寿賛助
三浦 時宣 二万
吉原木工所 一万

激忙の中での学位取得は、想像を絶する精進の賜物であります。

●海外留学僧派遣育英会

石川 孝禪 一万

その努力を祝つて、六月五日、ホテル・オークラにおいて

花柳 一徳 十万

●二童子勸請寄寄付
大道 晃仙 二万

鈴木 和夫 十五万

三浦 時宣 二万